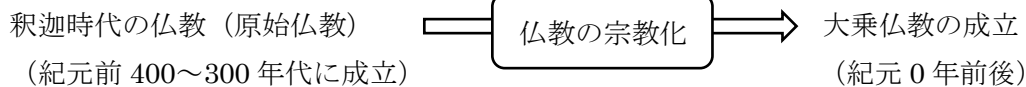


諏訪形誌を歩く『金窓寺を訪ねて』 補足資料

1. 仏教基礎知識

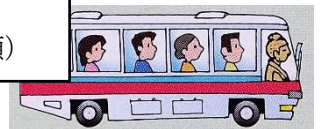
○仏教の変遷と仏像の成立



修行による自己救済
（自力本願）



信仰による救済
（他力本願）



○仏陀（ブッダ＝ミホトケ）増殖と偶像化のメカニズム



菩薩

如来

このパターンが一般化される。

観音菩薩 勢至菩薩
文殊菩薩 普賢菩薩
弥勒菩薩 地藏菩薩
日光菩薩 月光菩薩 etc

釈迦如来 阿弥陀如来
薬師如来 大日如来
阿閼如来 宝生如来
多宝如来 世自在王如来 etc

○「お経」の成立

- ・多くのゴーストライターが、上記パターンを文章化⇒大乘仏典（いわゆる「お経」）成立
古代インド語（サンスクリット語＝梵語）で書かれる。
- ・中国に伝播⇒中国語に翻訳（漢字経典）⇒日本にそのまま輸入（日本語には翻訳されず）
意味不明のまま呪文化
- ・お経の典型的パターン（「テキスト構造」といいます。）

「如是我聞」＝「私は、このように聞きました。」という一文で、まず「枠物語」が始まる。

㊤ 枠物語



㊤ お経の本編

昔々、あるところに
○○という如来がいてね、・・・
・・・シャーリプトラ君（舍利子）
聴いてるかい？・・・
・・・うんぬん

・日本でもっともポピュラーなお経といえば・・・

はんになしんぎょう

般若心経 (B)の部分だけが残ったもの)

般若心経

揭諦揭諦 波羅揭諦 波羅僧揭諦 菩提娑婆訶

多呪即說呪曰

呪能除一切苦眞實不虛故說般若波羅蜜

多是大神呪是大明呪是無上呪是無等等

得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故

得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無

罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢

亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無

無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死

不增不減是故空中無色無受想行識無眼

耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至

是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨

異色色即是空空即是色受想行識亦復如

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五

蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不

摩訶般若波羅蜜多心經

(仏教哲学者 中村 元 翻訳)

シャーリプートラよ。(以下略)

識も、すべて実体がないのである。

これと同じように、感覚も、表象も、意志も、認

知もないことは、物質的現象なのである。

これは、すべて実体がないことである。およそ実体

がないということは、物質的現象なのである。

これを離れて物質的現象であるのではない。

「このようにして、」およそ物質的現象というも

のは、すべて、実体がないことである。およそ実体

がないということは、物質的現象なのである。

これを離れて物質的現象であるのではない。

「このようにして、」およそ物質的現象というも

のは、すべて、実体がないことである。およそ実体

がないということは、物質的現象なのである。

これを離れて物質的現象であるのではない。

「このようにして、」およそ物質的現象というも

のは、すべて、実体がないことである。およそ実体

がないということは、物質的現象なのである。

これを離れて物質的現象であるのではない。

「このようにして、」およそ物質的現象というも

のは、すべて、実体がないことである。およそ実体

がないということは、物質的現象なのである。

これを離れて物質的現象であるのではない。

「このようにして、」およそ物質的現象というも

のは、すべて、実体がないことである。およそ実体

がないということは、物質的現象なのである。

2. 金窓寺のミホトケ

○本尊 阿弥陀如来（根拠となる主な大乘仏典『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』）

※禅宗寺院では、少数派

※阿弥陀如来は、本来、浄土宗や浄土真宗の本尊

- ・「阿弥陀如来」の名前について

サンスクリット語で、「**アミターバ**」＝**ア**(否定語)・**ミタ**(量る)・**アーバ**(寿命)＝寿命を量ることのできない仏
中国語に翻訳するとき、意味を重視して「無量寿如来」 音に漢字を当てて「阿弥陀如来」

- ・『無量寿経』

④ 枠物語 ガンジスの強国マガダ国の首都の郊外で、釈迦が弟子たちに語った。

⑤ お経本編

- ・昔々、法蔵菩薩が48の本願を立てて修行し、ついに阿弥陀如来になったんだよ。
- ・自分に帰依すれば、誰でも西方極楽浄土に連れていく。（「南無阿弥陀仏！」）
- ・極楽浄土の描写 宝石の木々が繁茂し、音楽のような水音で流れ、香水の雨が降る。……

- ・『観量寿経』

④ 枠物語 ガンジスの強国マガダ国で大事件。父王に対して息子が反乱。（インド史の事実）
苦しむ王妃に、釈迦が語る。「阿弥陀如来に救いを求めなさい。」

⑤ お経本編

- ・阿弥陀如来が、観音菩薩と勢至菩薩を従えて出現する。
 - ・阿弥陀如来は、善人悪人区別なく、誰でも死後極楽浄土へ連れて行ってくれる。
- でも、生前の行いで9ランクの区別がある。



阿弥陀仏の印相＝「九品印」



上品上生



上品中生(中品上生)



上品下生(下品上生)



中品上生(上品中生)



中品中生



中品下生(下品中生)



下品上生
(上品下生)



下品中生
(中品下生)



下品下生

○本堂東仏壇 薬師三尊像

- ・根拠となる主な大乘仏典『薬師瑠璃光如来本願功德経』

- ④ 枠物語 釈迦はガンジスのマッラ国の首都クシナガラで、国王をはじめ、数万人の聴衆と共にいた。釈迦が語り掛けるのは、主に曼殊室利法王子（文殊菩薩）
- ⑤ お経本編

- ・ 1 2 の本願。…その6 自分に帰依すれば、美男、美女になれる。

その7 自分に帰依すれば、病気が治る。 etc 非常に現世利益的

- ・ 日光菩薩、月光菩薩が仕えている。十二神将が登場する。

【国宝事例】新薬師寺（奈良県奈良市）



○位牌堂仏壇 釈迦如来像

- ・ 根拠となる主な大乘仏典『法華経』（＝正式名『妙法蓮華経』）や『華嚴経』など

※「サッドルマ・プンダリーカ・スートラ」＝「白い蓮の花のような正しい教え」

※「南無・妙法蓮華経」＝「法華経に帰依します！」

原始仏教の人間釈迦（シャーカキヤムニ or ガウタマ・シッダールタ）とは

全く違うスーパーパワーの超絶ブッダとして描かれる。

※「奈良の大仏」（毘盧遮那仏＝盧舎那仏）も、実は釈迦如来です。

- ・ 印相は、「施無畏（右手）・与願（左手）印」



○古笈内 釈迦三尊像

- ・文化財的価値が最も高い。



・釈迦三尊像 その他の例



方広寺蔵（木造）浜松市

重要文化財 室町時代

相国寺蔵（絹本）京都市

伊藤若冲 画 江戸時代

